

答え

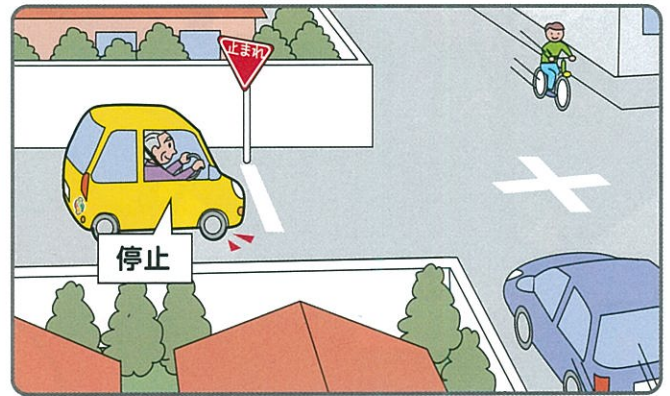
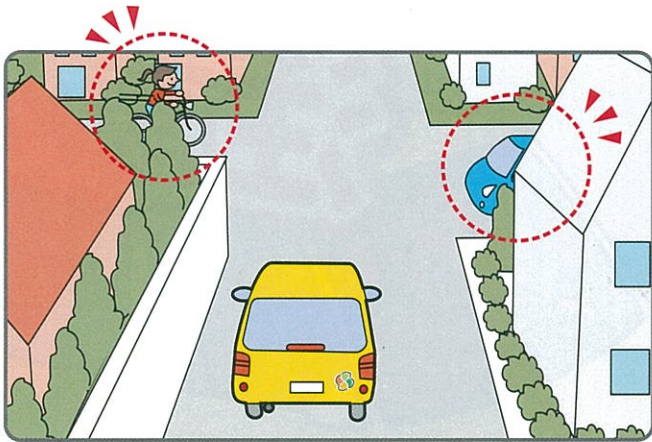
1

「徐行」や「一時停止」でしっかり安全確認!

高齢ドライバー(65歳以上)の事故の約3割が出会い頭事故です。

また、出会い頭事故のうち約65%は信号の無い交差点で発生しています(※1)。

※1 出典:(公財)交通事故総合分析センター「イタルダイナフォーメーション No.119」より



1 見通しが悪ければ、徐行が必要。

見通しが悪い交差点では左右の安全を確認し、車や歩行者に注意しながら、すぐ停止できるような速度で進みましょう。

2 一時停止の交差点では、しっかり停止!

一時停止の標識があるときは停止線の直前(停止線がないときは交差点の直前)でしっかり停止しましょう。

●自動車運転中、暗い道で対向車や先行車がない場合は、ハイビームを活用しましょう。

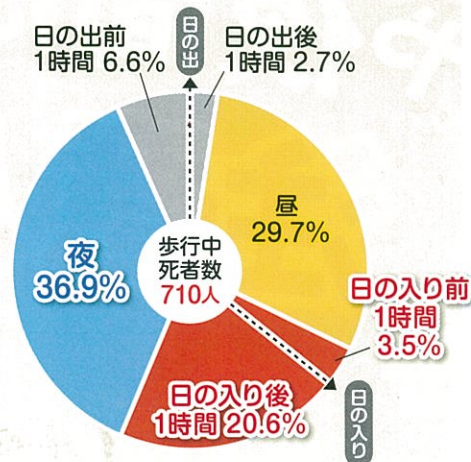
答え

2

身を守るのは「安全確認」と「反射材」

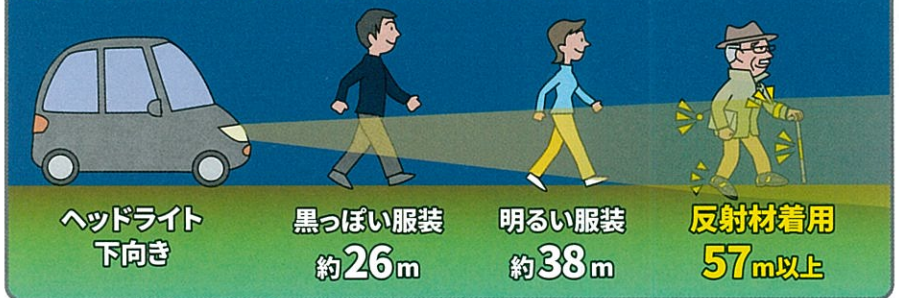
高齢者(65歳以上)の歩行中死者の約7割が夕暮れと夜間に交通事故に遭っています。

対車両の高齢者歩行中死者数
(第1・第2当事者)(※2)



※2 出典:2020年中の警察庁統計より

◆夜間、ドライバーから歩行者が見える距離(※3)



※3 この結果はJPマークの付いた製品によるもので、面積2.5cm²かつ反射性能117mcd/lux以上の反射材を使用

反射材は交通事故防止に有効です

車のライトがついていても、ドライバーから歩行者が見えているとは限りません。道路横断時の安全確認徹底に加えて、反射材を靴の側面やかかと、杖などに付け、自分の存在を車にアピールしましょう。

一般社団法人 日本損害保険協会

<https://www.sonpo.or.jp/>

この印刷物のPDFファイルは、上記サイトからダウンロードできます。

統計データ提供:警察庁交通局

